

沿岸地域風の呼称にみる環境観の共通性

—日本海・ヨーロッパ地中海を対象として—

Similarity of the environmental conception investigated from the name of the wind
in a coastal area—In the case of the Sea of Japan and the Mediterranean Sea—

矢内 秋生¹

(武蔵野大学 人間関係学部)

地中海	伝承的な風の呼称	シノプティック・スケール現象	環境観
Mediterranean	Folk terminology of winds	Synoptic scale phenomena	Environmental conception

はじめに

筆者のこれまでの風や波の伝承的呼称の調査^(注1, 注2, 注3)では、地域社会特有の自然現象に対する心象風景(以下、風土的環境観という)が地域住民に共有されるためには、自然現象の空間スケールと時間スケール、特に現象のライフサイクルあるいは再現周期が重要な形成因子であることを示した。また、これらの現象を認識する住民の環境観には、国や民族を越えての共通性がみられる。本報告では地中海、いわゆる閉鎖海域としてヨーロッパ地中海と日本海の沿岸をとりあげ、その風土的環境観の共通性を示す例を紹介する。

1. 地理的条件と自然現象

地中海は東西 3,500km、南北 1,000～1,500km であり、イタリア半島で 2 つに分断されたとみても日本海の 2 倍程度である。その空間的なスケールは気象現象を想定すると、シノプティック・スケールとしての現象でおさまる範囲である。緯度は、中央部の海域で北緯 35 度から 40 度で日本海の緯度にほぼ相当する。日本海の場合には、中国大陸から朝鮮半島を経て、日本海の海域を日本列島に向かって、温帯低気圧が通過し、沿岸地域を固有の現象が消長する。

地中海の場合には、温帯低気圧の通過は若干北のヨーロッパ中央部を通過することが多い。しかし、通過する低気圧による気象変化

や海象変化は海域にまでおよび、沿岸各地ではやはり共通の現象が消長する。もちろん両海域沿岸では、気象変化とともに海象変化が体験される。体験される自然現象はパターン化されて人々に受容されている可能性が高い。

2. 風土的環境観の形成条件

ある地域において風土的環境観が共有されるための条件として、次の諸点を上げることができる^(注4)。

- 1) 季節的な変化やその他の大気の運動に起因する変化の影響を受けやすい地域であること。すなわち北半球では中緯度地域であること。
- 2) 対象地域がシノプティック・スケール、あるいはそのスケールよりも若干小さい地域であること。
- 3) 現象のライフサイクルが人間の日常生活における変化記憶のスケールに合っていること。
- 4) 自然現象の多くが容易に再確認や追体験できること、つまり人間の活動スケールの範囲であること。
- 5) 自然現象が気象の変化ばかりでなく海象変化の体験によって、さらに印象が強化されること。
- 6) 気象現象が周期的にパターン化されるだけでなく、海象現象もパターン化されるために対象地域の海域が閉鎖海域であること。

- 7) 住民の現象体験が歴史性を持っていること、つまり地域が伝承機能をもっていること。
- 8) 自然現象に関する「地域固有のことば」が共有される程度に集落が存在し、言語的文化が存在すること。

実際、ヨーロッパ地中海にはほぼ全海域の現象であるシロッコ、ボラ、ミストラル、その他、地域風に異名や多くのヴァリエーションがある。

3. 共通性を示す風の呼称

日本海沿岸（韓国沿岸と日本海沿岸）およびヨーロッパ地中海沿岸における風などの呼称の中で風土的環境観として共通のものをあげると次のようなものが代表的である。

表. 共通性を示す環境観の例

天候を色でとらえる	
ハエ（山口県他）	シロハエ（晴の北風） クロハエ（雨の北風）
ボラ （トリエステ）	Bora chiara（晴のボラ北東風） Bora scur（雨と雲のボラ）
レヴァント （アルプス南部）	Levant blanc （雨を伴わない東風）
アカカゼ（石川）	海面を赤くにごらせる風
血の雨（マルタ）	Blood rain（砂交りの赤い雨）
天候を擬人化する	
～モノ、モン （石川富山地域）	トヤマモン（富山者） エッチュウモン（越中者）
～ネギ（釜山） （尾浦,松亭）	スヨンカンネギ（水滸江の奴） ランサンネギ（元山方向の奴）
トラモンタン （フランス南部）	Tramontane（山向こうの人）
レヴァンタール （スペイン南部）	Levanter（レヴァント人, 東風）

4. まとめ

Bora chiara は晴れた天気にかかる北東からの強風（ボラ）、Bora scura は雨と雲のと

きの北東からの強風（ボラ）の呼び名である。Chiara は鮮明な、晴れの、心地よいなどの意味、Bora scura は暗いボラ（Dark Bora）の意味である。島根県などの西日本のハエ（冬の北風）の認識と同様である。また、日本海の沿岸では低気圧の通過にもなってアナジ、北アナジやハエ、オオバエなど変化に関しての呼称があるが、アドリア海のダルマチア沿岸には borino（弱いボラ）、boraccia（強いボラ）という言葉の変化表現がある。

ピレネー山脈地域の西よりの吹き降ろし風は、Tramontane は山向こうの人という意味の Tramontane（トラモンタン）と呼ばれる。このパターンは日本、韓国とも強い北よりの風など不快な体験を意味することが多い。

このような今日の科学的認識とは異なる風土的な自然認識においては、人々が風や波浪現象、天候の変化などを表現する言葉の中に「天候全般」や人・ものを運んで来るという「日常的な体験」、その現象がもたらす「皮膚感覚」などが盛り込まれている。逆に言えば、地域風などの呼称には人間の自然認識つまり風土的環境観が内包されている。したがって、その地域風などの呼称を通して、表現している言葉の使用法や表現パターンを知ると、対象にしている沿岸地域に共通する環境観を見出すことができる。

注1) 矢内秋生(1997)風土的な環境観のための自然現象に関する伝承的呼称、環境情報科学、11, 141-146.

注2) 矢内秋生(1999)日本海の自然現象に対する韓国の風土的環境観、環境情報科学、13, 1-6.

注3) 矢内秋生(2000)韓国東部漁村における風の呼称と認識、環境情報科学、14, 165-170.

注4) 矢内秋生(2003)シノプティック・スケール現象に対する環境認識の共通性、武蔵野大学大学院紀要、3, 101-118.

†YANAI,AKIO(MusashinoUniversity,Prof.Ph.D.)